

看護職場への 2交替制勤務導入反対

16時間夜勤は海外ではありえない

急性期総合医療センターでは、病院当局が看護職場に現在の三交替勤務から長時間夜勤の二交替勤務を導入すべく学習会を行っています。組合は、長時間夜間労働は、体によくないことも知らせるべきと主張し、当局主催で、アメリカ航空宇宙局(NASA)で睡眠の研究をしている佐々木可先生を呼んで5月31日に学習会を開催しました。先生は、「宇宙飛行士が日本からNASAのあるワシントンまで移動するのは何日もかけて徐々に睡眠時間帯をずらしていること、人間にとって睡眠はデリケートな課題であること。今導入しようとしている16時間夜勤は海外ではありえない勤務で、最高でも12時間夜勤は空ける(例えば同日の夜勤は避ける)。連続勤務日は7日間であまり少なくも週末に2連続の休日をつけるのは原則的なこと。また、夜勤前の仮眠は効果がない。8時間夜勤の中で2時間仮眠をとることが効果的である」と述べた。

二交替を導入する理由に、「お休み」といった看護師が朝「おはよう」と言う患者が安心する。夜間に帰宅するのは危険だ。白衣を何回もかえなくていい。休みが多くなる(実は労働時間は同じで、まとめて働かなくて休むだけのことだが)など吹聴されるが、今回の学習会では、長時間夜勤は看護師の健康にとって問題が多いことが明らかになりました。



五月晴れの中、第55回大阪母親大会が、東大阪で開催されました。会場を埋め尽くす大阪中から集まった2600人の人々、午前中は全



第55回大阪母親大会

5月30日開催 東大阪

生かそう憲法、なくそう核兵器

ちひろが絵本作家になったわけく」でした。ちひろさんの長男でもある猛氏のちひろの原画をスクリーンに映しながらの講演は、とてもわかりやすく心に響くものでした。「平和はそれぞれの立場で訴えるもの」ちひろさんは、絵を通して訴えました。その思いは、猛氏へと受け継がれ、子どもへの幸福と平和を伝えられる美術館を作ろうとの思いが安曇野のちひろ美術館にこめられています。子どもたちが走り回ってもいい、池の中に入って見てもいい、昼寝の長い人も備えている美術館、人を幸せにするのが芸術だと言う猛氏、そんなちひろ美術館に行ってみたい気持ちでいっぱいになりました。

(女性部書記長 貴瀬広美さん)

(大阪)、済生会中央病院(東京)の若い看護師の過労死を無駄にせず今の看護労働と夜勤改善の運動にどう活かせるかが問われています。

府域の環境・食・自然の分野で 大きな役割果たす



環境農林水産総合研究所

環境農林水産総合研究所は、「食とみどりの総合技術センター」、「水産試験場」と「環境情報センター」の3機関が「挑戦・連携・共有」をコンセプトに、新たな研究分野への挑戦、大学やNPO、民間企業などとの連携、府民や関係事業者との情報共有を図りながら、豊かな環境と安全な食の創造を支えるためとして、2007年4月に統合しました。そして

府域の環境・食・自然のそれぞれ分野で大きな役割を果たしています。環境分野としては、①環境の監視、分析、調査研究②環境情報の処理、発信③環境教育・学習の推進④環境に関する研究開発支援・技術開発を行っています。農林分野としては、①安全で豊かな食と農を支えるための試験研究②環境を保全・創出するための試験研究を行っています。水産分野として

大阪府職労地方自治研究会
都市農業と大阪府農政を考えるシンポジウム
主催：大阪府職労農林支部

とき 2010年8月21日(土) 13:30~
ところ ドーンセンター特別会議室
大阪市中央区大手前1-3-49
地下鉄谷町線「天満橋」駅、京阪「天満橋」駅下車、東へ徒歩約5分

シンポジスト 大西敏夫和歌山大学教授 他

楽しく交流! 地区評運動がんばってます!

北大阪地区評なにわ探検クルーズ

北大阪地区評は5月22日、「落語家と行くなにわ探検クルーズ」を座席いっぱい40名の参加で開催しました。「太閤弁当」と飲み放題付き2時間コースでゆったりと水の都を大いに満喫しました。落語家の桂三ノ助さん(三枝の弟子)の楽しい語りで案内があり、道

続いて地区評では5月30日、住民アンケート行動に14名が参加し、アンケート64名分を回収しました。対話では、「成人病Cの移転問題」「深刻な不況や失業問題」「橋下知事の強引な府政運営への批判」など今後の運動に向けて貴重な対話行動を展開しました。

頃堀川ではお馴染みのカニ二道楽やグリコ等のネオンを見上げ、遊歩道ではカップルや外人さんとエール交換しながら、あつという間に船着場に到着しました。参加者からは「今回はサイコー! 次回も是非参加したいわ」「気軽に参加できる行事を期待してるよ」と感想が寄せられました。

